

# 「までい」の心を ラオスへ

5/18  
ラオス交流事業  
覚書調印式



▲覚書を交わす谷川理事長(右)と菅野村長

村とNPO法人アジア教育友好協会(谷川理事長、以下「アジア教育友好協会」)によるラオス交流事業覚書調印式が行われ、村長と谷川理事長が覚書を取り交わしました。  
覚書には、アジア教育友好協会がラオスに中学校を建設する際、村が支援を行うことのほか、小中学校への井戸掘削工事、教科書・教材の支援などが盛り込まれています。  
この事業は、村とラオスの小中学生との交流を通して、飯館の子どもたちの「までいな心」と国際人としての豊かな人間性をはぐくむことを目的としています。

調印式終了後、谷川理事長による講話が行なわれ、同協会が行ってきた活動やラオスの学校の現状などが紹介されました。  
村の支援で建設するドンニヤイ中学校は、来年5月頃完成する予定です。

## ラオス学校建設支援のこれまでの流れ

- 平成21年 9月 村づくりアドバイザーの佐川旭さんが各小学校で出前講座を行い、飯館村の「までい」の暮らし方に通じるラオスの生活を紹介。子どもたちから「ラオスと交流したい」という意見が出された。交流の一環として、基金や募金による学校づくりの支援を計画。
- 平成21年10月 村の臨時議会で関連予算が可決され「ラオス交流計画」がスタート。
- 平成21年12月 12月1日から「ふるさと納税」による「いいたてっ子未来基金」の寄附受付を開始。
- 平成22年 2月 教育長と職員がラオスを視察。5月に報告会を実施。
- 平成22年 5月 飯館村(菅野典雄村長)とNPO法人アジア教育友好協会(谷川洋理事長)が「ラオス交流事業覚書」に調印。

## 夢と出会いを大切に

5/7  
いいたてスポーツクラブ  
スポーツ少年団入団式



▲入団式の自己紹介の様子

スポーツ少年団の入団式が公民館を会場に開催されました。6団体の約90人が出席して行われた入団式では、初めに各団が自分たちの活動内容について紹介をしました。  
続いて、在団員を代表して佐藤和奏さん(フレンズ バレーボール)が新入団員を歓迎し、新入団員代表の巻野雄汰さん(いいたてジュニアクラブ 野球)が誓いの

ことばを述べました。  
式の終了後には「感謝と命の尊さ・大切さ」夢と出会いを大切に」と題し、元中学校教頭三本杉祐輝氏による講演が行われました。  
講演では、闘病生活を続ける氏の日々生きていることへの感謝が語られました。また、「夢を持つこと、人に感謝すること、人を尊敬すること」を大切にしてほしいというメッセージが子どもたちに贈られました。  
かつての教え子や多くの方が講演に耳を傾けていました。



▲子どもたちにメッセージを贈る三本杉氏

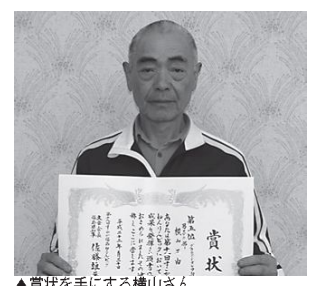
## 5/21 飯館小学校 「全校生アート」



▲水仙を植える飯館小学校児童

飯館小学校の全児童が校舎向かいの前山公園斜面に「全校生アート」で水仙の球根を植えました。  
この取り組みは地域との交流や愛校心を育むため継続されてきた体験活動です。2年間を越えてきた今年の水仙植栽でアートを完成させました。  
最近公園の景観を楽しむ人も増え、子どもたちの愛着も出てきたそうです。保護者や村内の方々から寄せられた水仙を、児童たちは力を合わせ楽しそうに植えています。

## 5/20 「すこやか福島ねりん ピック」で入賞



▲賞状を手にする高橋山さん

高齢者のスポーツの祭典「第18回すこやか福島ねりんピック」が県内9カ所の会場で開催されました。このうち福島市十六沼公園で行われたグラウンド・ゴルフ競技で、小宮行政区の高橋山正由さんが県内から集まった参加者512人中5位に入賞しました。  
グラウンド・ゴルフ歴5年という高橋山さん。「スコアが良ければ結果はついてくると思った。今後でもグラウンド・ゴルフを続けていきたい」と感想を語りました。着実にスコアを伸ばした結果の快挙です。